

令和2年度

北島南小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 豊かに表現し、学び合う授業づくり
- 保護者との連携による家庭学習の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長	教頭
	研修主任	教務主任	1学年主任
	2学年主任	3学年主任	6学年主任
	特別支援コーディネーター		

校長



【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや四則計算などの基礎的・基本的な知識・技能については、定着が見られる児童が多い。 ●学級内に、学力の差が見られ、定着していない児童もいる。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。 ・身に付けた知識・技能を用いて、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・朝のドリルタイムなどを活用し、計算及び言語の習得を図る。 ・授業の初めには、前時の復習を行う。 ・「まとめ」と「振り返り」を大切に授業づくりノート作りを心がける。 ・身に付けた知識・技能を活用できる場面を設けたり、活用が見られた時には褒めたりする。	・5時間目の前のスキルアップタイムでは、基礎・基本的な学習に加え、応用力を養うことを主とした学習を行う。 ・振り返りでは、学びを具体的に振り返ったり、考え方を自覚したりできるようにする。	・朝のドリルタイムでは、計算や言語の習得を中心に行い、基礎的・基本的な力を積み重ねることができた。 ・応用力を高めることを目的としたが、前半は休校の取り返しのため十分な取り組みができなかった。後半には、スキルアップタイムに応用問題に焦点化した学習を行うことに重点をおき、取り組んだ。	・スキルアップタイムを有効に活用していくために、教材や指導の仕方の見直しを行う。 ・復習やふり返りを大切に授業作りの実践と、共有を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○少人数の中で、自分の考えを伝えたり、事前に準備できる課題では、自己表現できる児童が多い。 ●自分の思いや考えを根拠や理由を挙げながら表現することに課題がある。	・目的に応じて、根拠や理由を明らかにして、自分の考えを伝えることができる。	・北島南小「授業のスタンダード」を使った話し合いを、早い時期から行い、継続して発言力を高めていく。 ・自分の思いや考えを「書く」場面を増やす。	・友達の発表や話し合う時などの話の聞き方(相手の方を見て頷きながらなど)にも気をつけさせる。	・北島南小「授業のスタンダード」を使った話し合いや、学級会の話し合い活動などで、自分の意見の根拠を明らかにした話し方ができる児童が増えてきた。 ・話の聞き方も、良くなってきた。	・今年度は、グループ活動が制限され、小グループでの話し合いがあまりできていない。自分の考えを伝える場面を増やし、自信をつけ、発言力の向上につなげる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝の読書、宿題など決められた課題には、まじめに取り組む児童が多い。 ●家庭での読書、自主学習などの自分から課題を見つけ選択して取り組むことには、差が見られる。	・学び方を習得し、自分に必要な学習を選択して、進んで家庭での学習や読書に取り組むことができる。	・「家庭学習の手引き」の活用を奨励する。 ・自主学習ノートは、内容と時間の両立を大切に指導を行う。 ・毎月23日の家庭読書の日をきっかけにしたり、読書を週末の宿題に出したりなど、日々の家庭読書を習慣づける。	・自主学習の仕方に戸惑う児童には、優れた自主学習ノートを紹介したり掲示したりして、よりよい自主学習の仕方を伝える。	・優れた自主学習ノートを紹介したり掲示したりすること等を通して、個々の自主学習の質も少しずつ向上してきている。 ・学校や家庭での読書には、個人差が見られる。	・自主学習の例を加える等、「家庭学習の手引き」を見直し、保護者への啓発を図る。 ・学級文庫を魅力的にするために、学期ごとに同学年のクラスで、図書を入れ替える。 ・読書の日、ノーメディアデーを定着させる。

令和2年度 学力向上ロードマップ

